

日本移植学会から、移植患者さんへのインフルエンザ対策についてのご注意

インフルエンザの予防

人ごみを避けましょう

手洗い、うがいを励行しましょう

栄養や睡眠を十分にとり体調を整えましょう

ワクチンは担当医と相談の上、なるべくうつようにしましょう。(移植後患者さんは、「後天的免疫抑制状態」ということで、「基礎疾患」がある優先接種対象者となります。特に、最近、小児の重症例が多く報告されており、小児の移植後患者さんは、特に接種が望まれます。ただし、ワクチンをうったからといって絶対にかからなくなるわけではありません。感染することには引き続き注意が必要です。かかった時の重症化(脳症や肺炎、死亡など)を防ぐ効果はあるとされています。一方で、ワクチン接種には、拒絶反応を起こすかもしれない、などの不利な点もあり得ます。

接種についての詳細は、主治医に相談するようにしましょう。ワクチン接種に関して、移植後患者さん一般には、以下のような点に注意が必要です。

1) 移植後間もない方、移植した臓器の機能が不安定な方、最近拒絶反応を起こした方、などは接種をしない方がよいとされます。

2) どのワクチンでも同様ですが、アレルギー反応や、局所が赤くなるなどの反応が起こることがあります。

3) 他の感染症を起こしているような状態でも接種は見合わせた方がよいでしょう。

インフルエンザにかかっているひとに接触したら

すぐかかりつけの移植医に相談して指示を受けて下さい。

(お薬を予防的に服用していただく場合があります。ただし、この予防投与の場合、保険が効かずに自費となりますので、かかりつけの先生とよくご相談ください。)

発熱、咳、喉の痛み、下痢などの症状がでないか気をつけ、1日1回検温をしましょう。

インフルエンザのような症状が出たら

すぐに、かかりつけの移植医に相談して指示をうけてください

(タミフルなどのお薬を服用していただきます。服用は発症後できるだけ早いほうがよいとされます。治療として処方される場合は保険が効きます。なお、腎臓の機能に障害のある方では、このお薬の投与量に調節が必要ですので、是非、かかりつけの移植医にご相談の上、服用されることをお勧めします。また、免疫抑制剤に関しては、発熱時に減量したり中止したりすることがあります。)

移植施設から遠くてすぐには行けない場合には、移植担当医やコーディネーターなどと電話などでまず相談してください。医師同士で相談の上、近隣の医療機関での診断治療をうけていただきます。

インフルエンザにかかった場合の自宅療養の仕方

- ・安静を保ち、保温しましょう
- ・水分、栄養の補給に努めましょう
- ・うがい、手洗いをしましょう
- ・マスクを着用しましょう
- ・お薬は、解熱剤などの服用も含めて担当医の指示に従ってください。